

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 8 日現在

機関番号：13301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2016

課題番号：24530394

研究課題名(和文)通貨から視る西アフリカ地域経済の分断と世界経済への統合：19・20世紀

研究課題名(英文)The Regional Fragmentation of West Africa and the Integration into the World Economy from the Perspective of Money: the 19th and 20th Centuries.

研究代表者

正木 響(Masaki, Toyomu)

金沢大学・経済学経営学系・教授

研究者番号：30315527

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、西アフリカで用いられる通貨の変遷と地域との関係を明らかにするものである。植民地化によって、かつて用いられていた子安貝、綿布といった商品貨幣の流通圏は分断され、各地域は宗主国を中心とする通貨圏に組み込まれた。独立後、旧仏領は、従来のシステムをほぼ維持し、対して旧英・葡領は独自の通貨を発行することで直接世界経済に統合されることを選択した。21世紀に入り、これらを統合して共通通貨を作るという新たな取り組みがはじまった。本研究では、こうした通貨の移り変わり西アフリカ地域経済・世界経済との関係を明らかにし、特に、商品貨幣ギネ(インド産藍染綿布)のグローバル取引について詳しく調査した。

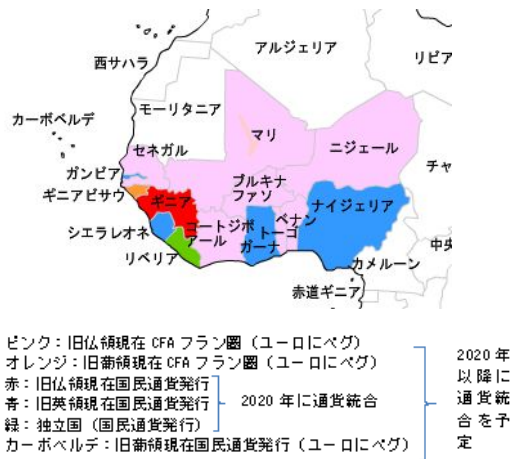
研究成果の概要(英文)：This research focuses on the role of monetary evolution (i.e., the transition from commodity money to regional money passing through colonial and national money) on the changes in economic relationships at both regional and global levels. Due to colonization, the circulation areas of the existing commodity money were reshaped by European powers. Specifically, they were incorporated into some currency areas such as franc, sterling, and escudo. After independence, former French territories tended to maintain the colonial currency system, while former British and Portuguese colonies opted for a direct integration into the world economy by issuing their own national currencies. Nowadays, these ex-colonies have been making efforts towards the creation of a common currency area. In addition, this research clarifies the role of an indigo-dyed cotton cloth from French India, known as guinee, introduced by France in the 19th century as a means of payment in Senegal and French Sudan.

研究分野：世界経済論

キーワード：通貨 西アフリカ ギネ(インド産藍染綿布) 地域経済統合 商品貨幣 植民地通貨 共通通貨 グローバルヒストリー

1. 研究開始当初の背景

図1は、西アフリカ諸国独立以前の宗主国と現在使用されている通貨の関係を示す。いずれも植民地時代には、それぞれの宗主国通貨にペグされ、スターリング圏、フラン圏、エスクード圏を構成していた。植民地化以前はこうした境



界にとらわれることなく、子安貝、綿布、鉄棒といった通貨が地域内交易の交換財として利用されていたが、植民地化によって、それぞれが宗主国の通貨圏に組み入れられ、それに伴い地域経済が分断されることとなった。

図1 西アフリカの通貨と旧宗主国

図1のうち、CFA フラン圏では、外貨準備の一定割合をフランス国庫に預ける代わりに、その共通通貨 CFA フランをフランスフラン(1999 年以降はユーロ)に固定レートでペグすることをフランス政府が無制限に保証しているところに特徴がある。これはある意味、「政治的独立後も宗主国に経済的に従属する」ことを意味し、それを嫌ったギニアは旧仏領でありながらも独自の通貨を発行している。同様に、旧英・葡領も、独立後、それぞれが中央銀行を設立して国民通貨を発行することを選択した。ただし、そうであるがゆえに通貨管理が十分になされず、インフレに苦しむ国が少なくない。結果的に、葡領のカーボベル

デとギニアビサウは、結局、ユーロにこれら通貨をペグさせることを選択した。他方で、CFA フラン圏は低インフレ率ではあるが、金融政策が先進国の通貨ユーロに連動するため、旧英領に比べて低成長に陥りがちになるという問題を抱える。

このような状況の下、2001 年、西アフリカはこれら 15 カ国の通貨を統合する計画を発表した。具体的には、図の旧英領とギニアおよびリベリアを 2003 年までに通貨統合(WAMZ)し、次にそれと CFA フラン圏およびカーボベルデを統合するという計画である。しかしながら、WAMZ を構成する 5 カ国いずれも通貨統合に必要な収斂条件を満たせず、計画は 4 度延期され、現在は 2020 年を目標にマクロ経済の調整が行われている。さらに、WAMZ 形成後に予定されている CFA フラン圏との統合も、フランスと CFA フラン利用国との間の特異な経済関係が障害となって容易ではないことが予測される。

2. 研究の目的

通貨を媒介としながら、「西アフリカ地域経済の分断と世界経済への統合」の関係性の変化を明らかにする。具体的には、西アフリカの通貨が「自然貨幣 商品貨幣 植民地通貨 独立後に導入した通貨 地域共通通貨」へと移行する過程で、西アフリカ地域経済が宗主国経済に統合されながら、他方で複数の宗主国によって地域経済が分断されたこと、そして独立後、再び、通貨が地域経済統合の手段へと変容していき、結果的に世界経済へ統合される過程の詳細を明らかにすることが本研究の目的になる。

3. 研究の方法

本研究では、仏領西アフリカ(CFA フラン圏)を

重点地域とし、セネガル、フランスおよびインドのボンディシェリーの文書館・資料センターで、植民地フランが導入される過程および植民地フランが導入される前の段階にフランスがどのように決済手段を当該地域に導入したのかについての史料・データを収集し、ワーキングペーパー等にまとめ、次に、国際学会等で発表してアドバイスを受け、最終的に論文としてまとめるという手法をとっている。

4. 研究成果

大きな成果は、植民地フランを導入する前にフランスが決済手段として導入していたインド産藍染綿布(ギネ)についてのおよその詳細が明らかになったことである。成果は社会経済史学会の学会誌に発表することができた(雑誌論文)。また、ギネを中心に19世紀の商品貨幣について英文ワーキングペーパーにまとめ国際学会等でも数回発表した(学会発表)。ギネについての詳細を明らかにした論文は多くはなく、加えて決済手段について踏み込んだものは皆無であり、日本においても海外においても関心を持って下さる研究者は少なくない。ただ、海外の査読誌に発表するには至っておらず、今後もさらなる調査結果を加えて海外ジャーナルへの投稿を続ける予定である。二つ目の成果は、大ざっぱでまだ細かい点での検証が必要とされるものの、西アフリカの通貨史の概要をまとめることができた点になる(雑誌論文 と および書籍)。本研究終了時までには完成しなかったが、後日、英文でも発表する予定である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

(雑誌論文)(計4件)

正木響「19世紀にセネガルに運ばれたインド産藍染綿布ギネ：フランスが介在した植民地間交易の実態とその背景」『社会経済史学』、第81巻第2号、2015年8月、239-260(査読有)。

正木響「セネガル銀行(1853-1901)設立の背景とその実態」『国民経済雑誌』第211巻、第1号、2015年1月、39-57(依頼論文)。

正木響「西アフリカ(経済)通貨同盟の成り立ちと近年の動向(後篇)—1994年のCFAフラン切り下げ以降の展開—」『Africa』(アフリカ協会)2014年冬号、2014年12月、38-47(依頼論文)。

正木響「西アフリカ(経済)通貨同盟の成り立ちと近年の動向(前篇)—旧宗主国フランスとの関係を中心に—」『Africa』(アフリカ協会)2014年秋号、2014年9月、40-49(依頼論文)。

(学会発表)(計6件)

正木響 "Guinée cloth (Indian cotton cloth and its imitation) exported to Western Africa". 京都大学東南アジア研究所・共同研究拠点植民地体制下の東南アジアにおける地域経済の変容に関する比較史的考察 2016年度第2回研究会, 2017年1月29日、京都大学東南アジア研究所(京都)。

Toyomu Masaki "Guinée cloth exported to Western Africa via France 1815-1929: Focusing on the change of

transit points and destinations at the turn of the century". VI Annual Meeting of the African Economic History Network, 22 October 2016, Sussex University, Brighton(UK).

Toyomu Masaki "Globally connecting the facts: A history of guinée cloth exported to French territories in Western Africa via France, 1833-1925", 20 April 2016, African Studies Center, Boston University, Boston(USA).

Toyomu Masaki "Global History of Guinée Cloth Transported from Pondicherry to Senegal via France in the Long Nineteenth Century". African Studies Association, 58th Annual Meeting, 19 November 2015. San Diago(USA).

Toyomu Masaki "Multiple monies in Senegambia (1815-1901)—Indian cotton, silver coin, and paper money—", XVIIth World Economic History Congress, 4 August 2015, Kyoto International Conference Center, Kyoto(Japan).

正木響「19世紀のインド産藍染綿布ギネ交易から見るフランスを媒介としたセネガルとボンディシェリーの経済関係」、社会経済史学会近畿部会、2013年10月19日、同志社大学(京都)。

(図書) (計4件)

正木響「通貨の諸相 - 子安貝・植民地通貨・共通通貨・仮想通貨—」、木田

剛・竹内幸雄編『安定を模索するアフリカ』、ミネルヴァ書房、2017年3月、67-91。

Toyomu Masaki "Globalization and Regionalization of Africa"(in English), In book ed. by Takahashi, M. and K.Kitagawa, *Contemporary African Economies: Changing Continent under Globalization*, African Development Bank, July 2016, 205-230.

正木響「アフリカ経済のグローバル化とリージョナル化」、北川勝彦・高橋基樹編『現代アフリカ経済論』ミネルヴァ書房、2014年10月、221-244。

正木響「アフリカとグローバル経済」『アフリカ事典』昭和堂、2014年5月、248-251。

[産業財産権]

○出願状況(計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

○取得状況(計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年月日:

国内外の別:

{その他}

ホームページ等

正木響研究室

<http://toyomumasaki.w3.kanazawa-u.ac.jp/index.html>

6. 研究組織

(1)研究代表者

正木 響(Toyomu Masaki)

金沢大学・経済学経営学系・教授

研究者番号:30315527

(2)研究分担者

なし

(3)連携研究者

なし

(4)研究協力者

なし